

カラスの巣立ち



写真1

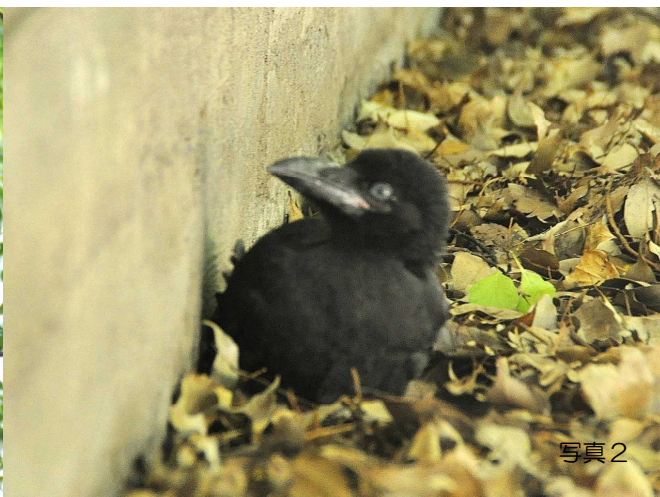


写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

2013年**5月23日**（木）、中間試験最終日の朝、佐高のテニスコート脇の通学路では、一つの事件が起こっていた。自転車で登校する生徒達を2羽のカラスが襲っていたのだ。後から首の辺りを突っかれたという。話を聞いて駆けつけた先生方にも襲いかかろうとしたり、樹の上からくちばしで噛み切った枝を次々に落としていた（写真1）。

近づこうとする者を必死に威嚇するその真下には、30cmくらいの**カラスのヒナ**がうずくまっていた（写真2）。2羽のカラス（おそらく夫婦）は、巣から落ちてしまったヒナを守ろうとしていたらしい。そのため、ヒナに近づこうとする者を襲ったり、木の枝を落としていたのだ（写真1, 3）。木の枝を落とすことは、もしかしたら視線を上集中させ、ヒナがいることに気づかせないようにするねらいがあったのかもしれない。子どもを守ろうとする執念と知恵は、我々の想像をはるかに超えていた。

しかし、場所が生徒の通学路であることから、生徒の安全を考え、その対処法をカラスの専門家に相談することにした。宇都宮大学農学部生物生産科学科の**杉田昭栄先生**だ。杉田先生はカラスの研究で全国的に有名である。9時頃、杉田研究室に電話すると、すぐに引き取りに来てくれるという。研究室で飼育してくれるらしい。

11時20分頃、杉田研究室に所属する竹田先生と大学院生の2人が車で佐高に到着した。竹田先生は、素手でカラスに近づくとあっという間に捕獲してしまった（写真4～6）。「これは**ハシフトガラス**ですね。」くちばしの太さで、ハシフトかハシボソかが見分けがつかないのだ。

竹田先生によると、5月中はハシボソガラスの巣立ちの時期で、これからはハシフトガラスの時期だそう。しかし、今回のヒナは飛べるようになるまで、**あと2週間**くらいはかかるらしい。杉田先生の研究室では、カラスの行動などについても研究しており、今回同行していただいた大学院生（写真5に写っている女性）は、カラスに**GPS**を着けてその行動を追跡している。**数十キロ**程度を行動圏としていることもわかってきたそう。この子ガラスもカラスの研究に貢献してくれることになるのだろうか。